

連携・協働の  
輪を広げる

第3回

# さかい市民活動協働大賞

(第3回さかいNPO協働大賞)

受賞団体にインタビュー

魅力ある  
まちづくり



## 泉北レモンの街ストーリー



### さかい市民活動(さかいNPO)協働大賞とは

市民活動団体と企業、大学などが協働し、地域課題解決等のモデルとなる事業を提案した団体を表彰する制度。3回目となる今回は、大賞1団体、特別賞2団体が選ばれ、1月29日、フェニーチェ堺で表彰式とインタビューが行われました。



### 発達障がい児のための コミュニケーションワークショップ

特定非営利活動法人ぴーす



### 地域防災事業

大阪府立大学 ボランティア・市民活動センター V-station

問い合わせ・堺市市民人権局市民生活部市民協働課  
TEL 072-228-7405



## 発達障害児と保護者の同時支援を大切に

特定非営利活動法人ぴーす

「ぴーす」(前身団体)では、2004年の発達障害者支援法施行前から、発達障害児への支援活動に取り組んでいます。「発達障害において全般的にいえるのは、社会性とコミュニケーション能力の弱さです」と、小田多佳子さん。

そこで、2008年から人権教育活動に取り組む「特定非営利活動法人えんばわめんと堺」によるプログラムを基にしたワークショップを始めました。

並行して、発達障害者支援センター「アブリコット堺」のスタッフによる保護者

向け相談会も実施。ともに活動のサポートは「ぴーす」が担当。3つの団体の異なる専門性を活かしながら協働することで、子ども・保護者の双方に役立つ仕組みが成り立っています。

「私たちがやりたいのは、子どもたちのエンパワーメントを高めること。発達障害は自分で自分をサポートする、自己容認が大切です。障害があっても自分を素敵な人なんだとプライドを持って、楽しく暮らしてもらいたいですね」と温かい思いを話してくれました。



特定非営利活動法人  
ぴーす 理事長  
小田 多佳子さん



活動の様子

### 活動紹介

2004年から、障害児の母親を中心に活動開始。発達障害、知的障害、肢体不自由など、さまざまな子どもへの支援を行う。児童デイサービス、セミナー主催、講師派遣なども実施。

<http://p-s-sakai.net/>



## 学生と地域がつながり防災コミュニティに

大阪府立大学 ボランティア・市民活動センター V-station



大阪府立大学  
工学域機械系学類2年生  
陳代(ぢんだい) 修平さん



毛布担架の訓練

大阪府立大学「ボランティア・市民活動センター V-station」(センター長=吉田敦彦副学長)は、学生が地域住民、小学校や自治会と交流・連携し、「防災コミュニティをつくり上げること、を目的に活動を行っています。今回の協働事業の一つには、近隣の土師校区自主防災会と小学校などで実施したさまざまな防災イベントも。

「子どもが積極的に参加してくれれば、保護者も興味を持ってくれます。そこで防災が持つ硬いイメージを覆すような、ゲーム感覚で楽しめるプログラムも実施しています」と話すのは、災害ボランティアチームの

陳代修平さん(2年生)。

土師校区自主防災会との協働事業は5年目に突入。回を重ねるごとに地域との信頼関係が深まり、情報の共有も進んでいます。「防災意識の高い地域、を生み出す取り組みとして、まちの成熟にも一役買っているよう。

「防災訓練への参加率が低いのは、私たちのような大学生から子育て世代にかけての層。災害時に最も活躍しなければならないこの世代をどう巻き込んでいこうか。今後もチーム全員で取り組んでいきたい」と陳代さん。学生ならではの視点が、V-stationの活動を支えています。

### 活動紹介

「何か活動したい」という学生と、「学生の力を借りたい」という地域の人々をつなぐ場。人との交流が中心の活動から、清掃活動、環境保全、国際支援活動まで、非常に多様な分野で取り組みが進められています。

<https://volunteer.ao.osakafu-u.ac.jp/>

# 魅力アップにつなげたい **泉北レモン** でみんなが憧れるまちに

## 大賞 泉北レモンの街ストーリー



年齢や職業の異なる15人のメンバーで活動。レモンの苗木の植樹、鉢植え設置の推進、レモンを介したコミュニケーション・ネットワークづくりなどに取り組む。「泉北レモン」は商標を取り、大阪産(もん)、堺市優良観光みやげ品に認定された「マーマレード・フロマージュ」をはじめとした加工品を開発。毎年3月に大蓮公園で泉北レモンフェスタを開催し、泉北レモンの普及を通して、まちの新たな活力・魅力を醸成している。

<https://senboku-lemon.net/>

代表 苅谷 由佳さん



光齋局長から表彰状を受け取る代表の苅谷さん



フェニーチェ堺のギャラリーで、堺市市民人権局長の光齋局長と泉北レモンの街ストーリーのメンバーの皆さんが受賞の喜びを語り合いました。お揃いの帽子は、メンバーの手編み。もちろんレモンイエロー

市民活動団体と企業、大学などが協働し、地域課題解決等のモデルとなる事業を提案した団体を表彰する「さかい市民活動協働大賞(第3回さかいNPO協働大賞)」(主催/堺市)。大賞に、「泉北レモンの街ストーリー」が選ばれました。そこで、堺市市民人権局長の光齋かおりさんと、「泉北レモンの街ストーリー」代表の苅谷由佳さんにお話を伺いました。

※文中敬称略



◀地元の榎塚幼稚園のみんなで、レモンの苗木を植樹しました



▲泉北レモンの街ストーリープレート

### レモンの苗木の植樹を起点にネットワークを構築

「今回のさかい市民活動協働大賞(第3回さかいNPO協働大賞)ですが、その目的と、回を重ねる中で感じておられることを教えてください。」

光齋 一番の目的は、「コミュニティの活性化に尽力されている皆さまをたたえたい、そしてその活動を広く知ってもらいたいということ。市民活動団体の皆さまが、地域、企業や学校などの団体を巻き込みながら活動を広げていくことに、まちの活力を感じています。今回も協働の仕組みや実行力などについて、高く評価させていただきました。」

「今回の大賞を受賞した事業について、活動のきっかけを教えてください。」

苅谷 泉北ニュータウン開発時に、両親が家を買い、記念樹としてレモンを植えたところ、毎年300個以上の実がなりました。泉北は瀬戸内式気候で柑橘類がよく育つんです。多くの方に配ったら、とても喜ばれて。このうれしい思いが、根源にあります。結婚後、あちこちに住んだ地方の友人に泉北のお土産として渡せるものがないことに気が付きました。そこで、先ほどの思いがよみがえり、「泉北をレモンの街に」

### 900人以上が賛同、泉北で育まれた地元愛

「まちがレモンを通して、一丸となりつつある様子がかげえます。」

苅谷 泉北ニュータウンは、他地域から引越してきた住民が非常に多い地域なのですが、皆さん地元愛がとても強いんです。長年暮らす中で、自分たちのまちを誇りに思う気持ちを表現したいとみんなで考えているときに、私たちが「レモン」というものを提示した。タイミングが良かったんだと思います。活動を開始して5年もたないうちに、900人以上の方が動いてく

光齋 活動が成熟段階に入られたわけですね。さわやかでかわいらしい、そして食べられるレモンに着目されたのは、とても素晴らしいと思います。企業と協働しながら加工品の販売にも注力されていますが、個人的にはジャムが食べてみたいですね(笑)。特産品が広まれば、泉北の宣伝にもつながります。」

「今後の展望は?」

苅谷 活動を永続的なものにしていくために、通し番号をふった「泉北レモンの街ストーリープレート」を作成しています。現在、プレートナンバーは850を超えています。活動するうちに、レモンをたくさん見ることが出来る場所が増え、一年中レモンを身近に感じて生活できるまち、レモンで人を迎えられるまちになればうれしいです。光齋 苅谷さんのようなまちを愛する市民の皆さまの熱意が、より大きなコミュニティ活動の広がりを生んでいく原動力になると思います。そしてその想いや行動力がまちの魅力や価値の向上につながっていくと思っています。これからの活動に期待しています。

## 表彰式会場

2019年10月オープン

### フェニーチェ堺

表彰式が行われたのは、昨年10月にオープンしたばかりの「フェニーチェ堺」(堺市民芸術文化ホール)。圧巻の大ホールや伝統芸能にも対応した小ホール、市民の文化的活動を豊かなものにするスタジオや多目的室などが完備されています。



堺が誇る新たな文化芸術の拠点に(南海堺東駅から徒歩約8分)



どの席からもステージが見やすい大ホール(2000席・3層バルコニー構造)



堺市市民人権局長 光齋(こうさい)かおりさん